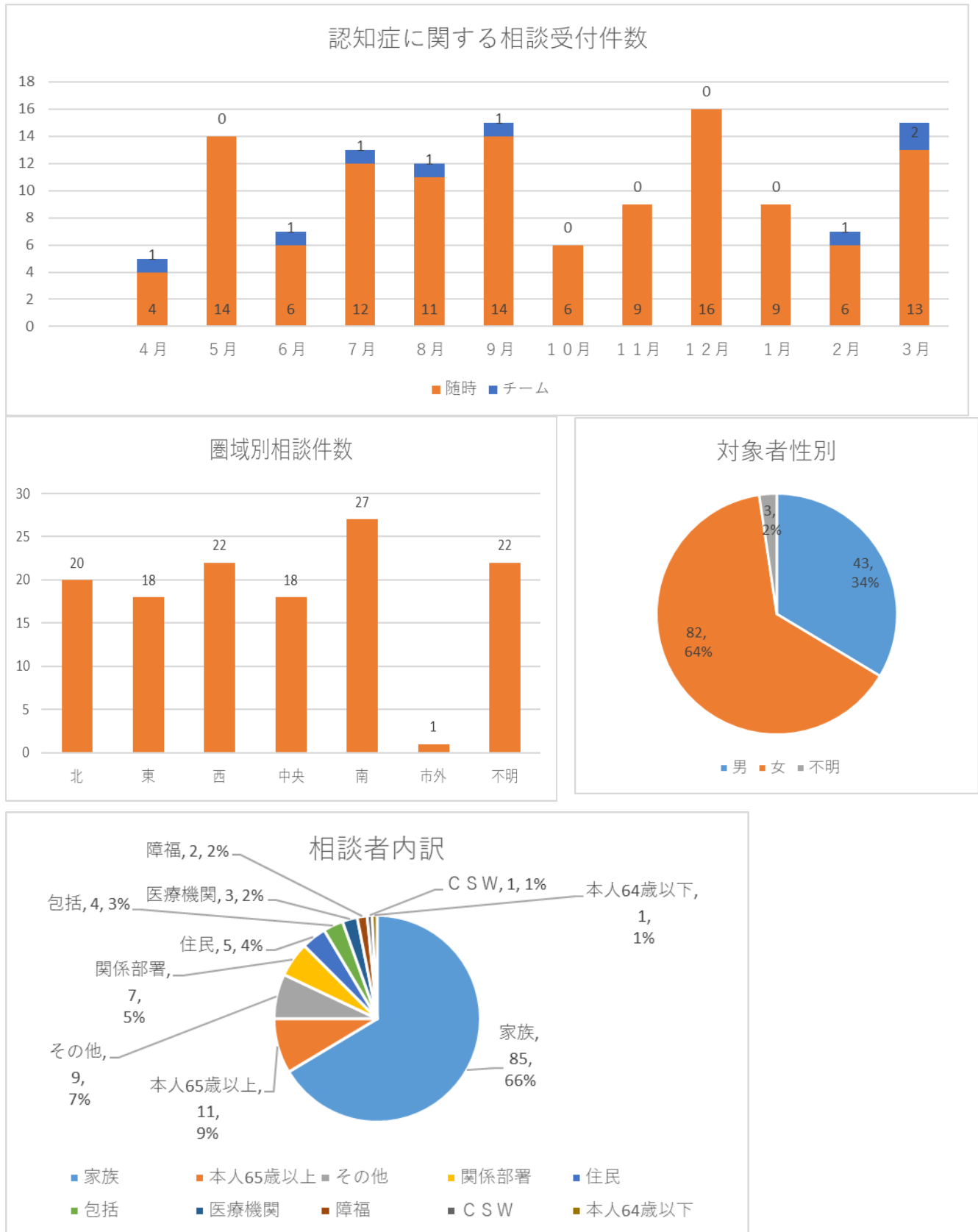
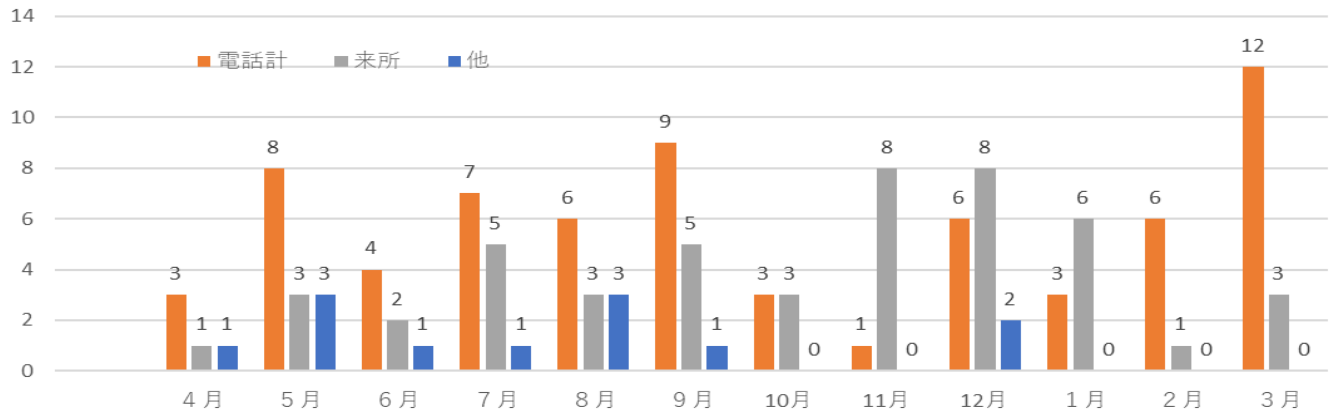


## 令和2年度認知症初期集中支援チーム活動実績

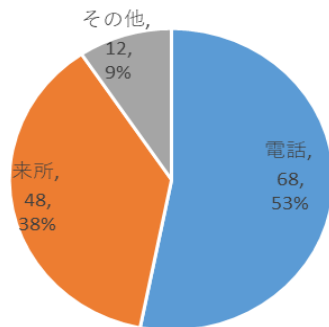


認知症に関する相談受付件数は128件。相談者内訳は家族がもっとも多く、次に本人、その他（警察や職場関係等）であった。また、圏域別では南が多いが、他圏域と比較して特記すべき傾向は見られなかった。対象者性別は男性より女性が多かった。認知症に関する相談受付件数のうち、家族や本人からの訪問希望や、警察や職場関係からの相談がきっかけで、8件についてチーム介入した。

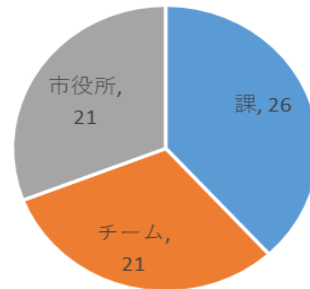
## 相談受付手段



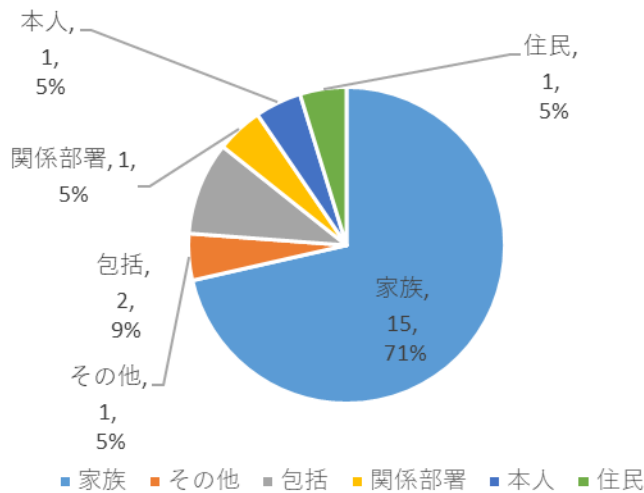
### 相談受付手段



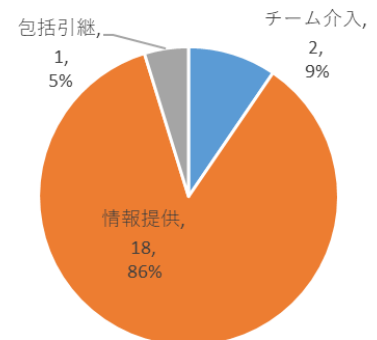
### 電話ルート



### チーム専用ダイヤル相談者内訳



### チーム専用ダイヤルの対応結果



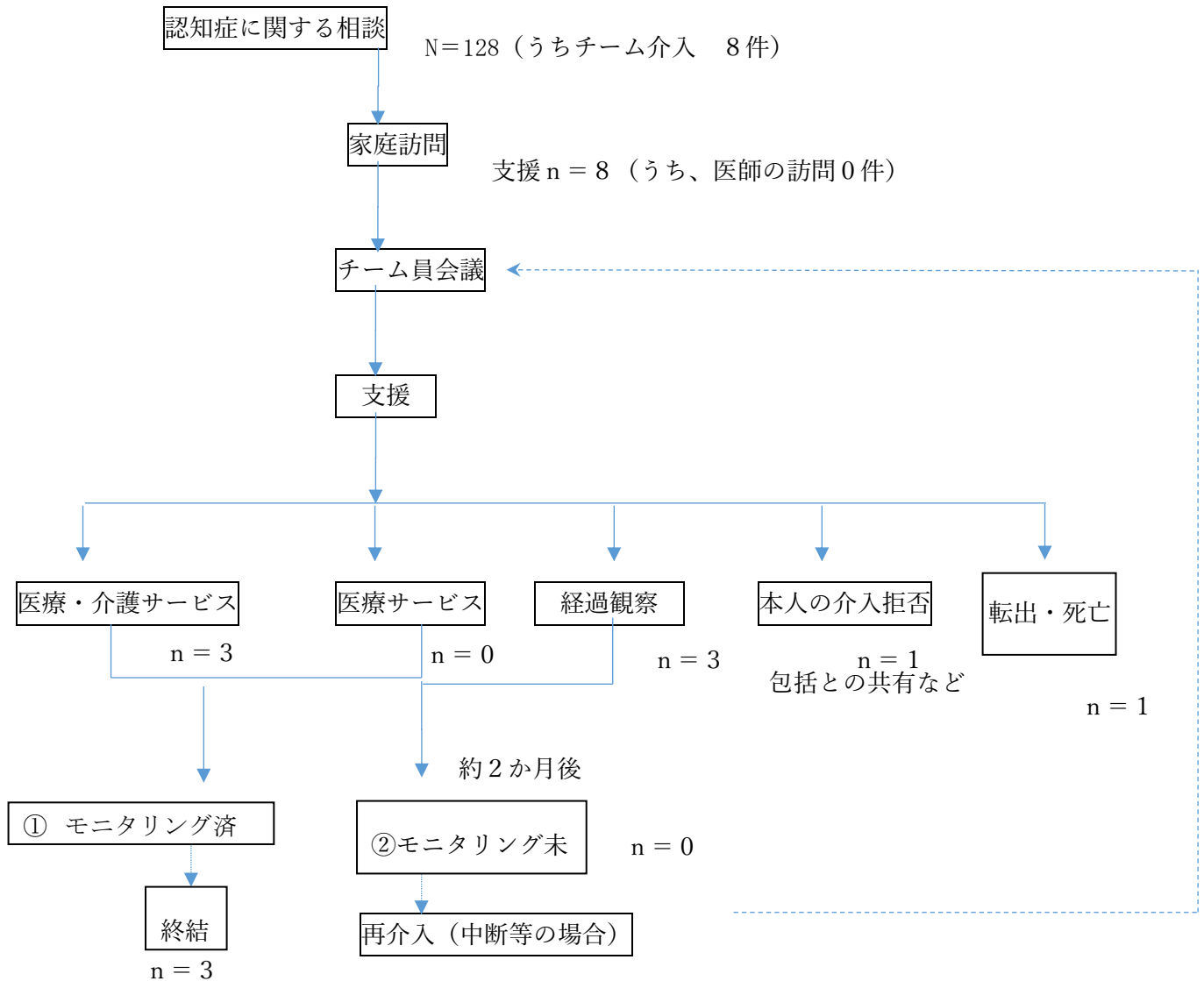
相談受付手段は、電話が68件、来所が48件、その他（関係部署から直接等）が12件であった。

電話ルートは、チーム専用ダイヤルが21件、当該課が26件、市役所代表が21件だった。

チーム専用ダイヤルの相談内容は、認知症症状が出ているがどうしたらいいか等全ケース認知症疑いについてであった。対応結果は、訪問を希望するものは少なく、チーム介入2件、受診推奨や地域包括支援センターを紹介する等の情報提供18件、相談者と担当地域包括支援センターに助言を行い引き継いだケースが1件だった。

コロナ禍により、訪問支援では、マスク着用と手指消毒を徹底し、滞在時間を短時間にする等、感染拡大防止に努めた。チーム員会議はオンライン開催とする等、開催方法の見直しを行い、チーム員専門医との連携を図った。また、認知症初期集中支援チーム検討委員会では、開催が1回となり開催数が減少した。

## 令和2年度チーム・オレンジいばらき活動実績



チーム介入者の年齢は70歳～83歳、独居の男性が多かった。相談者は家族が3件、警察、職場関係が2件、本人が1件であった。No. 8は3月末の介入のため、3月末日での訪問回数は0回である。介入期間は1～3か月が多く、集中的に支援が行えたものと考えている。認知症自立度は、介入～終了後にかけて介護保険申請をした場合のデータを抽出したものである。以前に比べると初期から中期にかけているケースが多い。

下記表のDASC21の点数は初回訪問のデータである。3回以上の家庭訪問を行ったケースにおいては、初回訪問よりも点数が高くなる傾向にあった。いずれも独居で第三者からの情報が得られにくく、初回訪問では十分な判断材料が得られないこともあった。今後も独居対象者の介入は増えると思われるため、早期診断・早期対応が行えるよう、関係機関との連携による支援体制の強化に努める。

チーム介入者の状況

No	年齢	性別	把握経路	訪問(回)	独居/同居	DASC(点)	介入期間(日)	認知症自立度
1	79	男	警察	1	同居	なし	1	II b
2	70	男	警察	18	独居	40	178	不明
3	74	男	家族	2	同居	26	77	II a
4	81	男	元同僚	3	独居	31	102	III a
5	83	女	本人	12	独居	29	111	II b
6	75	男	家族	4	独居	40	継続中	III a
7	78	女	家族	1	同居	24	継続中	不明
8	74	男	雇用主	0	独居	33	継続中	不明